

国民の審判で「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

# ほっかいどうの社会保障

2013年3月4日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

## まともな暮らしを保障する社会を！

困ってる人 みんな集まれ集会 吹雪の中 700人が参加 デモ行進も

3月2日、まともな暮らしの保障を求めて、「困ってる人 みんな集まれ 1000人集会」が札幌市教育文化会館大ホールで行われました。あいにく吹雪の悪天候でしたが、道北、胆振、日高など道内各地から700人以上が参加しました。

オープニングは非正規で働くラッパーのGABBYさん(21)の歌で始まり、進行は、生活保護を利用しながら働き2歳の子の母親でもある西塚妙美さん(30)、臨時職員として保育士をしている桑田実望さん(21)が行いました。三浦誠一実行委員長(道生連会長)が「生活保護基準の引き下げは、国民生活全体に影響します。憲法で保障する・健康で文化的な生活とは何かも考えたい」とあいさつし、「困ってる人」を代表して5人が訴えました。



メインゲストの反貧困ネット代表の宇都宮健児弁護士が記念講演し、「貧困と格差を解消するためには、消費税増税より富裕層に対して課税を強化し、人間らしい生活ができよう、労働政策や社会保障政策を拡充させることが必要」と訴えました。「今日も勇気をもって発言してくれました」と発言者を激励し、当事者が声を上げていくこと、労働運動、社会保障運動、消費者運動の垣根を越えたつながりが求められている」と強調しました。

集会後は、デモ行進も500人で行い(宇都宮さんも参加・写真)、市民に訴えました。生活相談も2件ありました。

当事者5人が実態と改善求め訴え 3月6日に厚労省や国会議員へ要請します



集会では、生活保護利用者3人、非正規労働者1人、年金生活者1名が訴えました。3月6日には、集会を代表して、厚生労働省や道内選出の国会議員へ、直接声を届けます。

生活保護を利用している安田敏彦さんは、病気で入院後、ホームレス状態になった経験も紹介、須藤英未さん(31)は、産後数ヵ月から厳しい就労指導が行われた実態を告発、病気で生活保護を利用して1年になる石橋亮さん(33)が「生活保護基準の引き下げや改悪はや

めさせるために頑張っていきましょう」と訴えました。続いて、介護職場で働く宮部末信さんは、「年収200万円以下での生活は、ギリギリの生活ではなく、食費や付き合いなどを切り詰めてやっと生活している。最低賃金、月20万円の保障をしてほしい」と訴えました。年金で生活する西田雄一さん(72)から、「10月から年金が下がると聞きます。低年金の方が多いです。厚労省にもっと貧困対策をすすめてほしいと訴えてきます」と表明しました。

集会参加者から、80人以上の安倍総理へのメッセージ(下記一部)も寄せられました。代表団が届けます。

拝啓 安倍晋三 総理大臣殿

生活保護利用者も、非正規労働も、年金生活者もあたりまえのくらしの保障を求めます。

- ◇キャベツ1玉いくらで売っているか？寒い冬を過ごすのに灯油がどのくらい必要かわかりですか。
- ◇「是非 当事者の話を聞いて見て、自分の頭で考えて下さい」「国の貧乏人いじめはやめて下さい」
- ◇「生活保護基準の引き下げは、食べていく事が出来なくなります。生活保護の改悪はやめて下さい」
- ◇「年金11万円で何とか暮らしていますが病気をしたら困ります。どうか高齢者が生活できる年金を」
- ◇「3カ月の短期雇用の繰り返しで、更新されるかはわかりません。正規雇用を原則とする労働政策を」
- ◇32歳の息子はパートで月10万円。今は私達夫婦と同居で生活できますが将来が不安でいっぱいです
- ◇「母子家庭で仕事のない母親が苦しんでいます」 ◇「精神障害者は貧乏です」